

## 「エシカル消費」と「食品ロス削減」で未来を変える！」議事要旨

---

### (開催要領)

1. 開催日時：令和2年12月17日(木) 14:00~16:05
2. 場 所：テレビ大阪株式会社
3. 登壇者：  
内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全） 井上信治  
消費者庁 審議官 片岡進  
大阪ガスマーケティング株式会社 開発推進部 お客さま室リーダー 田中久雄  
株式会社山長商店 経営企画室 取締役企画部長 迫平隆志  
大阪教育大学大学院 高度教職開発系 教授 鈴木真由子  
江崎グリコ株式会社 SCM本部グループ 調達部長/CSR委員会 環境部会長 森田裕之  
公益財団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 理事・西日本  
支部支部長 樋口容子

### (プログラム)

1. 開催挨拶 井上信治
2. 施策説明 「with コロナ時代の消費者行政」片岡進
3. 第1部 講演①「エシカル消費につながるエネルギー資源の選択」田中久雄
4. 第1部 講演②「林業六次産業化による環境貢献と地域との取り組み」迫平隆志
5. 第2部 パネルディスカッション「地域における取組とエシカル消費・食品ロス削減」  
ファシリテーター 鈴木真由子  
パネリスト 森田裕之/樋口容子
6. 閉会挨拶 片岡進

\* 敬称略・順不同

---

### 1. 開催挨拶

エシカル消費の推進と食品ロス削減の実現の鍵となるのは、事業者と消費者の協働・協力です。SDGs に取り組み、人や環境、社会に配慮した商品やサービスを提供する企業が増えることが重要です。その上で、こうした企業の商品やサービスを、消費者がエシカル消費を通じ、応援すれば、事業者と消費者で協働して、よりよい社会を実現することになり

ます。

また、食品ロスの削減についても同様です。“食いだおれの街”と称される大阪においては、外食産業と連携し、外食時の食べ残しゼロに向けた啓発活動をはじめ、食品ロス削減に向けて積極的に取り組んでいただいておりますが、こうした事業者、消費者双方の意識改革と、取組の促進が不可欠です。このシンポジウムに参加の皆様のご起こす具体的な行動が全国に広がることを期待します。

## 2. 施策説明「with コロナ時代の消費者行政」

SDGs の目標 12「つくる責任 つかう責任」は、持続可能な社会の実現に向けて、事業者と消費者が共に協力して取り組む必要性が明確に認識されていて、まさにタイムリーな課題といえます。

消費者庁は、その課題の対応として、エシカル消費、食品ロス削減に取り組んでいます。

消費者の消費行動という点では、新型コロナウイルス感染症の拡大が消費者の意識を変えるきっかけになったのではないかと考えています。人や社会とのつながりを感じ、将来のことを考え、そして他人のことを考えて消費することの大切さ、これこそがまさに、エシカル消費ということではないかと考えています。

食品ロス削減に関しては、平成 29 年度の推計で年間 612 万トンとなった我が国の食品ロスの約半分は家庭で発生しているということで、まさに家庭での取組がこれから大事になっていくと思います。

他人事ではなく自分事として捉えて行動に移していくこと、そして、一人ひとりの小さな一歩が社会を変え、事業者、自治体、様々な団体、そして国が意識をひとつにして取組を進めていくことが重要であると考えます。本日は、地元大阪府で、エシカル消費や食品ロス削減に取り組まれている方々にお越しいただいております。具体的で先進的な取組を共有いただくことで、ここ大阪から全国におおきなうねりができることを期待しています。

## 3. 第 1 部 講演①「エシカル消費につながるエネルギー資源の選択」

エネルギー会社の大きなテーマとして、省エネルギーの推進と再エネの導入、レジリエンスの強化を挙げています。

省エネと再エネ導入を上手に組み合わせることで、エネルギー全体の消費量を減らすと同時に、CO2 削減、ひいては地球温暖化の防止に貢献できると考えています。

発電時の排熱を利用するコージェネレーションは、高効率で省エネに貢献しつつ、地域分散型エネルギーとして停電時の電力確保で非常事態を回避して、レジリエンス強化につながった事例があります。再生可能エネルギーの導入促進状況では、全国広域に電源を保

有し、風力、太陽光、バイオマス等、再エネの電源を 2030 年で 100 万キロワットの導入を目指して現在進行中です。

事業者と消費者の協働、相互理解がますます深まるように、会社として丁寧な情報発信を心掛けていきたいと思っています。

#### 4. 第 1 部 講演②「林業六次産業化による環境貢献と地域との取り組み」

山長商店は、植林から半世紀以上経った木材を伐採し、加工し、お届けする「木材の産直」を実現している会社になります。紀州材の特徴は、強度が強いことです。その木材を 1 本 1 本全量検査し、JAS（日本農林規格）にのっとって合格した木材だという証明を印字し、どなたでもわかってもらえるような工夫をしています。

木を切ることは悪いことと今でも誤解されている方がたくさんいらっしゃいます。今は、使う量よりも資源量の方がはるかに多いということで、逆に使って、また植えて、ということをしていかないと、これから若い木が育っていかない、という話をしています。

山長商店では、6000 ヘクタールの森林を所有していますが、自社で保有しているからといって勝手に木を切ることはできません。国や地方公共団体に許可をもらう必要があります。そうした中で、通称「クリーンウッド法」が平成 29 年 5 月に施行され、山長商店は事業者として登録しています。

木を使いながら環境貢献できることを今でも模索しながら、身近でできる啓蒙活動をして、少しでも役に立ちたいと考えています。

#### 5. 第 2 部 パネルディスカッション「地域における取組とエシカル消費・食品ロス削減」 ・「食品ロス削減の取組」

##### ①樋口

家の在庫の確認、食べきれぬ量を作ること、使いきりや保存の工夫が、食品ロス削減のために実践できることとして大切であることが分かりましたので、「食べきりレシピ」を考案して大阪府に提供しています。この食べきりレシピは、大阪府が作成したパンフレット「今日から始める冷蔵庫革命」の中でも紹介されています。

##### ②森田

季節商品である「冬のくちどけ」のふぞろい品を集めた、「冬のくちどけポッキー ふぞろい品」を開発し、通常品の 30 パーセント引きの値段で、平成 21 年 1 月から販売しています。今月 22 日に発売する「カプリコ ミニ いちご狩り」は、大阪府和泉市のいちごを使った商品です。消費されるはずだったいちごが新型コロナの影響で行き先を失い、活用に

関する打診を大阪府様からいただき、開発しました。

・「食品ロスの削減にうまく噛み合う大阪人の気質や習性」

①森田

東京では、おいしいものは値段が高くて当たり前ですが、大阪はおいしくて値段も安いのが当たり前。もったいないという文化も相まって、食べ物を余らせる、捨ててしまうということには非常に厳しい目があるなと感じています。

②樋口

ホルモンという料理は、「放るもん」を大事にする文化から生まれたそうです。そういう意味からホルモンと付けられているそうです。大阪では、そうした残り物をいかにおいしく食べるか工夫してきました。そこが非常に合理的だしスマートだし、食に関しても贅沢な地域ではないかと思います。

③鈴木

NHK 朝の連続テレビ小説の中で、「始末の料理」というのを紹介していましたが、大阪はすごく合理的。「もったいない」という気持ちを豊かな文化に変えてきたことが、食いだおれの街・大阪を支えています。

・「エシカル消費についての具体的な取組」

①樋口

「くらしをよくする 12 のヒント 今日からあなたも消費者市民」というテキストを作成しました。その中で食品ロス削減、地産地消、フェアトレードなどを取り上げ、どういふふう消費行動、購買活動をすればいいかということをも身近な例で伝えています。

②森田

チョコレートの原料となるカカオの生産国であるガーナの農家の方々が抱える問題の一つに児童労働があります。農家の方々が、持続可能な生活を営み、今後もカカオを喜んで作っていただけるような仕組みを作っていくのがミッションだと感じています。ガーナに限らず、発展途上国の皆様に対する江崎グリコらしい貢献の仕方が、まだまだあると考えています。

・「食品ロスの削減、エシカル消費について期待すること」

### ①樋口

大阪というのは本当に、世界に通用する合理的でスマートな消費生活を送っている府です。大阪がエシカル消費のいわゆる旗振り役として、日本を、いろんな都道府県を引っ張っていく役割を担ってほしいなと思っています。

### ②森田

グリコグループが環境や社会の課題を、リスクと機会の両面から捉えて活動することにより、お客様に行動変容を強いることなくグリコの商品を選択して購入して食していただければ、いつの間にかサステナブルな消費生活を営んでいるというような形にビジネスモデルと商品を再設計していくことが大事だろうと考えています。

### ③鈴木

過去のことは残念ながら変えられませんが、今を変えれば未来は変わっていきます。教育、啓発、そうしたものをそれぞれの立場でエールを送ってくださったのかなと受け取りました。

## 6. 閉会挨拶

本日は、消費者庁のライブシンポジウムをご視聴いただきまして誠にありがとうございます。ご出演の皆様の個々の取組がもうすでに始まっているということで、大変心強く思います。

エシカル消費という言葉は、まだまだ認知度が低いというのが現状ではないかと思えます。ご視聴の皆様一人ひとりがぜひ身近な人に、エシカル消費を率先してやっていこうとお伝えいただけたらと思っています。

そうした一つひとつの取組を、我々も発信していきながら、エシカル消費、食品ロスの削減が、ここ大阪から全国に広がっていくことを切に期待しています。

以上